

# マンブースものがたり

作・COP10 外来種を紙芝居で語る会





(2)

おっとう 「あいたたたっ」

サトウキビ畑から声が聞こえます。  
あら、たいへん！

おっとうが、ハブにかまれてしまいました。  
ハブの毒はつよいので、とても心配です。

家に帰ると・・・

(すべてぬく)

なにやら、おばあど男の子が、はなしています。

おっとう 「おばあ、おっとうはだいじょうぶかな？」

おばあ 「おっとうは、つよいから、だいじょうぶ。

畑でハブをふんでしまったんだね。

おまえも畑にいったら、きをつけるんだよ。

心配そうに  
ほっとしたか  
んじで

ああ、よかった。おっとうはさいわい、ぶじ  
のようです。  
ただ、こんなことが、サトウキビ畑のあちこ  
ちで起こって、なかには、命をおとす人もい  
たのです。  
村人たちは、なんとかしたいと、ずーっと  
思っていました。





(おもてを四分の三までぬく)

(3)

そのころ、ひとりの学者が  
インドのあたりを旅していました。

なんだか、にぎやかな音が  
聞こえてきましたよ。

みせものてんしゅ

「よつてらっしゃい、みてらっしゃい。  
はいはい、その旅のおかたも。  
コブラとマングースのけつとうが  
はじまるよー!」

げんきに

男のことにさそわれて、みると、  
マングースが、いまにもコブラにかみつこう  
としているじゃないですか!」

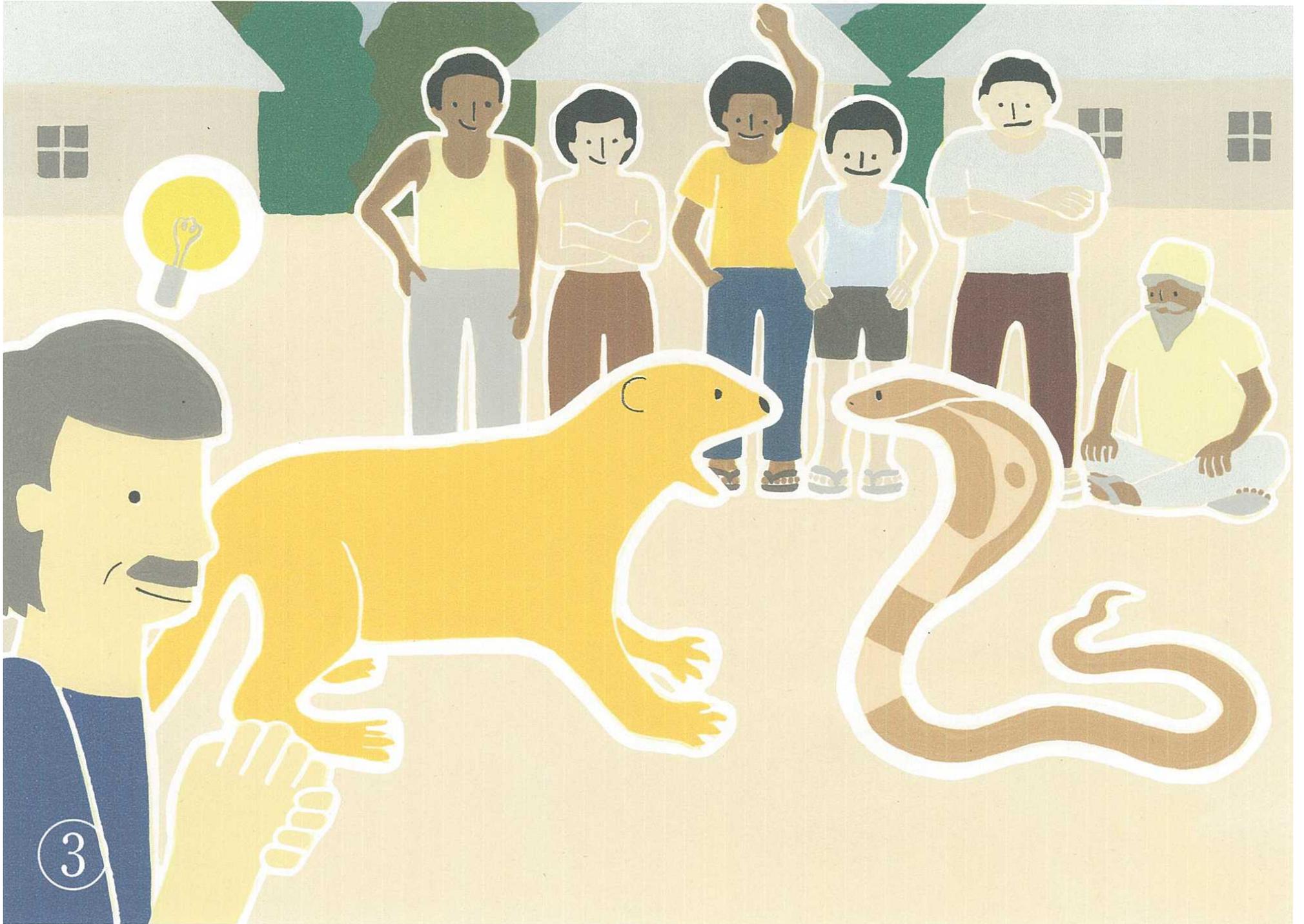
おどろいた  
かんじで

(すばやく、すべてぬく)

このとき、学者はフツと、ハブのひがいで  
こまっている、おきなわの人たちのことを  
思いだしました。

「これは、すごい。  
マングースはハブを退治してくれるぞ!」

(おもてを半分ぬく)





(4)

ナミノオト ザバーン、ザバーン、ザザザザア

あの学者が、大きな船に、マンゲースたちをのせて、おきなわにむかっています。

でおきなこえで

マンゲース1 「どんなところなんだろう?」

すこししんぱいそうに

マンゲース2 「あたらしい生活が始まるんだね。」

マンゲース3 「ぼくは不安だよ」

しらない場所につれてこられたマンゲースたちは、こんなことを考えていたのかもしれない。

(すべてぬく)

そんなマンゲースたちの不安をよそに、17頭が、おきなわにはなされました。

おきなわの人たちは、こどもも、大人も、おじいも、おばあも、みんなおおよろこびです。

これで、ハブの被害がなくなるんですから。

(おもてを半分ぬく)





ハ  
ブ

(5)

「月がキレイできもちのいい夜だなあ〜」  
あれあれ？ ハブがゆうつゆうつと  
夜のサトウキビ畑をさんぽしています。

おっつたように

これは、どうしたのでしょうか？  
ハブを退治してくれるはずのマンガースは  
何をしているのでしょうか？

(すばやく、すべてぬく)

いました！いました！こんなところに、マン  
グースが…  
そうそう、マンガースは明るい時間に活動  
するんです。

おどろいたように

夜活動するハブと、昼間活動するマンガースは、そもそも出会うことがないんです。おなかをすかせたマンガースが、ハブの代わりに黒い鳥をねらっています。それは、希少種のヤンバルクイナじゃないですか？

「ひと息おいて…」

しんぱいそうな  
こえで

マンガースがきたのに、ハブがへらないこと。  
かわりにヤンバルクイナが食べられてしまっ  
ているらしいこと。  
おきなわに、なにかおかしなことが起こって  
いることに、村人たちはなんとなく気づい  
ていました。

(おもてすべてぬく)



5



(6)

1990年代に入ると、いきものの専門家たちも、このことにきづきました。

ここはおきなわの北にある、ヤンバルの森です。2人の研究者がやってきました。ヤンバルのいきものを調べています。

けんきゆうしゃ「あつ、こんなところに羽がちらばってる。

ヤンバルクイナの羽ですよ。」

けんきゆうしゃ2「たいへんだあ。やはりマングースに食べられているようだ。」

最初に島の南ではなされた17頭のマングースがふえて、それにもなってヤンバルクイナは、だんだんとすがたを消していったのです。

でも、ハブを食べない上に、増えすぎてしまったマングースには、このあとたいへんな運命がまちうけていたのです。

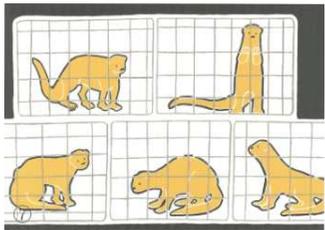
(おもてすべてぬく)

けんきゆうしゃになつたきもちで

みんなにはなしかけるように



6



(7)

オリノオト ガシヤン、ガシヤン

マングース キーツキーツキーツ！

マングースたちいったいどうしたの？

マングース1 「なにがなんだかわからないよー！」

マングース2 「捕らえられたんだ！」

マングース3 「わるい」となんてしてないんだよ」

マングース4 「おなかがすいたから、森のいきものを  
食べただけなんだー！」

マングース5 「あつ、まただれか、つかまったー！」

ふえすぎたマングースは、2005年頃から  
こんなふうには捕らえられています。

マングース 「どうしてこんなことになったんだよー」

おきなわという場所は、マングースにとって  
とてもすみやすい環境だったのです。

だからドンドンふえて、ヤンバルクイナなど  
の大切ないきものをドンドン食べてしま  
いました。

つまり、ヤンバルの森の生物多様性が、  
マングースのためにくずされようとして  
いるのです。

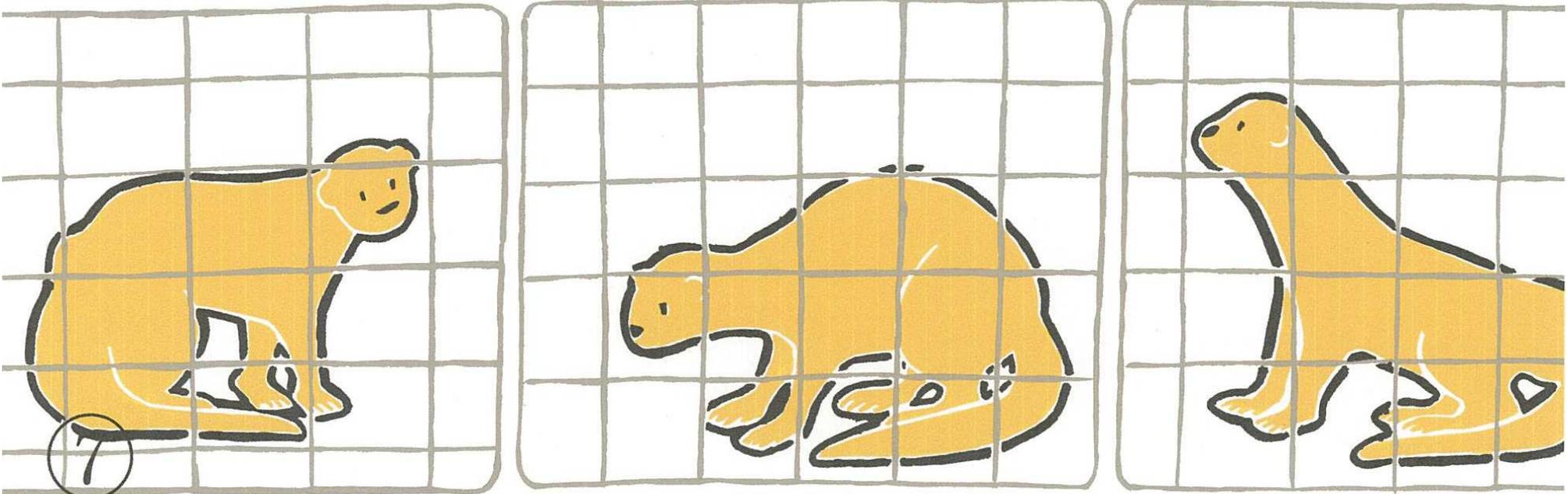
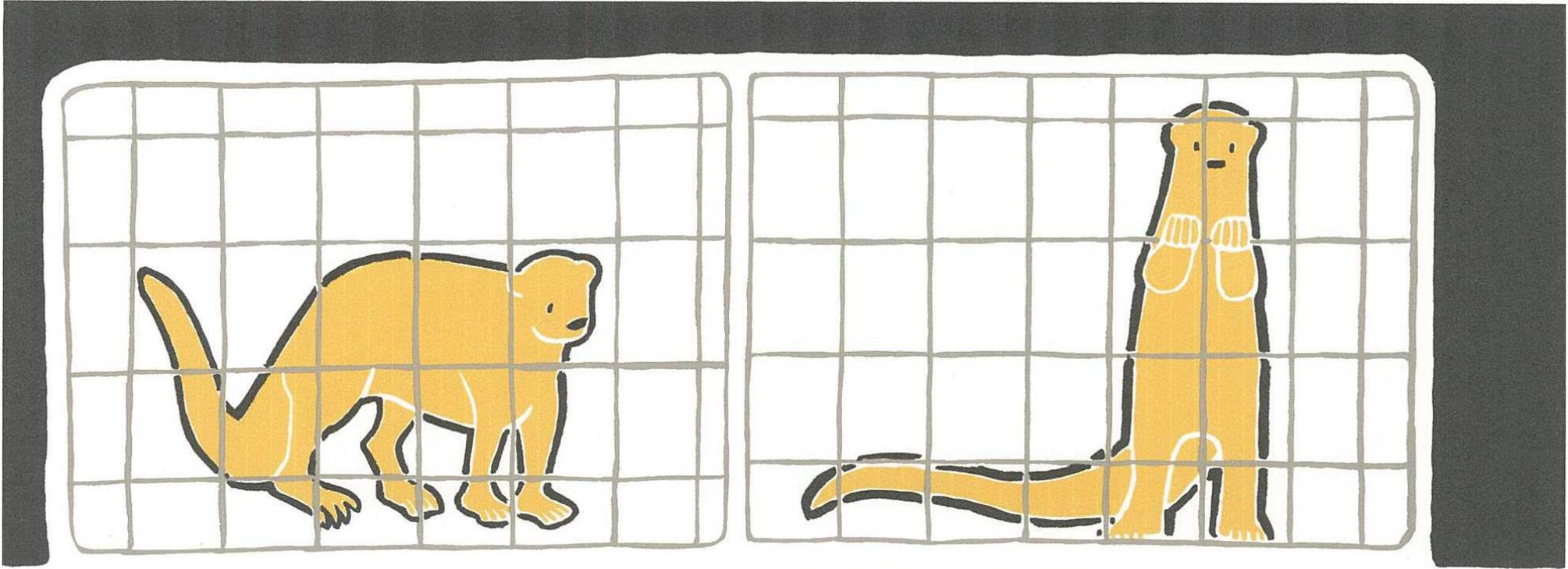
このため、ヤンバルの森では、捕獲が行われ  
るようになりました。

(おもてをすべてぬく)

おおきな  
「ジュウ」

いろいろなこえで  
やってみよう

こまったように



7



(8)

でも、それってマンダースからしたら、人間の勝手です。

マンダースはいいいます。

「勝手につれてきて、ふえたからって捕まえるなんて、ひどいじゃないか!」

ヤンバルクイナもいいいます。

「ぼくらが安心してくらせる楽園をかえしてよ」

せめられた人間は……

「やっちゃったよ」と頭をかかえます。

「こんどは、マンダースが怒ります。

「やっちゃったじゃないだろ」

ハブがみかねて……

「よく考えて、マンダースをつれてきたのもうっ!」

「こんな声なき」えてきそつです。

(おもてをすべてぬく)

それぞれの  
こえをかえて





(9)

さあ、かみしばいはこれでおしまいです。  
さいごに、このおはなしについて、少しでも考えましょう。

みなさんは、どう感じたでしょうか？

こんなことは、むかしのことでしょうか？と思ったかもしれません。

こんなばかげたこと、わたしだったらやらないと思った人もいるかもしれません。

でも、じつはいまも、みなさんの身近なところで、これとおなじ問題が起こっているんです。

「外来生物問題」ってきいたことあるでしょうか？

たとえば、ブラックバスがふえて、こまっている湖があります。ペットだったカミツキガメが、公園の池にすてられて、しばしばニュースになっています。

「このあとみんなで、自分たちの地域の問題について考えてみましょう」

(おしまい)





これは、いまから100年ほど前に、  
おきなわのある村で、  
ほんとうにあったおはなしです。

それでは、マングースものがたりのはじまりです。

(おもてを半分ぬく)

## 外来生物法について

環境省では、2005年に外来生物による被害を防ぐために、「外来生物法」という法律をつくりました。この法律でみなさんに守っていただきたいことは、次の3つです。

1. 外来生物を入れない。  
悪影響を及ぼすかもしれない外来生物を、むやみに日本に入れてはいけません。
2. 外来生物を捨てない。  
飼っている外来生物を、野外に捨ててはいけません。
3. 外来生物を拡げない。  
野外にすでにいる外来生物を、他の地域に連れてってはいけません。

これをみなさんが守ることで、いま各地で起きている、もともと日本にすんでいた生きものがすんでいた場所から追いやられてしまうという、外来生物による問題が、くい止められることになるのです。